

梅 檀

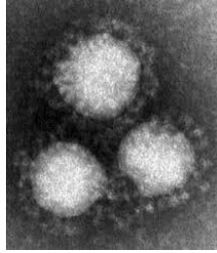
『新型コロナウイルス感染拡大防止』

世界・日本国民の課題

学校は、子どもたちのための成長の場であり、子どもや大人たちの夢や希望が育まれ、これからを生きる子ども達の聖地である。

世界の研究者や経済学者は、十年ほど前から二〇五十年問題をとり上げ、世界はグローバル・多民族共生・IT社会・人工知能に翻弄され、これまでに人類が経験したことのない様々な社会問題や課題、紛争や競争が生じ、予測できない解決の方策が強いられるであろうと予測した。(ダボス会議より)

現在、世界がウィルスという目に見えない細菌にこれほど苦しめられることを誰が予測できたでしょうか？



世界、日本、沖縄、国頭でも様々な対応や策が講じられている。テレビ、新聞、行政マイク等で国民や村民に自粛の要請や協力依頼が投げられる。「動かないでほしい。自粛しましょう。今年のGWは、がまんウィークです。」等。目に見えないウィルスで命が脅かされる。見えないものだから怖い、見えないものだから分からない。感染するのはウィルスだけじゃなく、我々の不安も一緒に連鎖する。医療従事者は感染拡大の防止に命がけの看護に渾身の思いで我が身を投じている。感謝と敬意を表したい。医療関係者においても様々な事情を背

負いながらの看護であることは察しやすい。しかし、彼らが最後の望みであり頼らざる得ない存在であることへの同情の念も発したい。

さて、学校では・・・

体育館には、入学式のために準備されたパイプ椅子とフロアシートが片付けられないままに放置された状態になり、各教室も新たなスタートに向け装飾された掲示が色あせてきた感じさせます。

写真は、一年の教室です。

ここに、子どもたちの笑顔や声がないことがさみしいの一言です。本来なら緊張した一年生の姿や見守る保護者の顔で愛らしい風景におさまるところなのですが：今年はずもいかなない特殊な非常事態です。ちなみに机は全学年ソーシャルディスタンスを可能な限り遵守しての配慮です。子ども達の声のない閑散とした学校・・・やはり学校は子ども達と教師たちのにぎわう『聖地の場』であることを痛感する今日この頃です。

新一年生保護者の皆様へ

非常事態宣言のさなか、お子さんや保護者の皆様不安や焦りを感じていることと思われまます。非常事態解除の先が見えない現実です。お家の方でもお子さんのモチベーションが途切れて心配になりますね。何らかの形で鉛筆や学習用のお道具に触れさせ学校再開への期待が維持できればと考えます。保護者と先生方で協力してこの状況を頑張っ乗り越えていきましよう。



五月二十一日(木)

休業解除・始業式・入学式

五月六日(水)県教育庁は、高等学校の学校再開を二十一日(木)からと決定し報道されました。国頭村内の小中学校においても、県教育庁の発表に準じて五月二十一日(木)が学校休業の解除とし、始業式が行われることが決まりました。つきましては辺土名小では以下のように行事日程を設定させていただきます。

○ 新任式・始業式→五月二十一日 午前

○ 入学式→五月二十一日 午後二時より

二十一日は給食の有無にかかわらず二・六年生は午前中登校となります。一年生の保護者におかれましては大変急ではございますが、職場のシフト調整等お手数をおかけすることとなります。なお、式は自粛要請とソーシャルディスタンスの維持に伴い新入生と保護者、学校職員で行いたいと思います。現状の理解とご協力お願いします。

子ども達の再登校に向けて

四月から子ども達の姿が見えない校内では、新任職員はじめ全職員で新年度の学習の資料づくりや校内環境整備に取り組んでいます。教師によってはまだ見ぬクラスの児童の話に期待が高まる毎日です。

親も子どもも、
家庭でも、学校でも、
先生方も頑張るのです。

